

血液内科 Hematology

1. スタッフ構成(2026年3月時点)

○名和 由一郎(がん治療センター長、改善推進本部長、輸血部長)

1992年島根医科大学医学部卒

専門分野:血液全般、造血幹細胞移植、急性白血病、多発性骨髄腫

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医・指導医、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医・指導医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本輸血・細胞治療学会認定医・細胞治療認定管理師、ICD制度協議会インフュージョンコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医

○中瀬 浩一(主任部長、がん治療センター副センター長、働き方改革推進室長補佐、改善推進室長補佐)

1996年岡山大学医学部卒

専門分野:血液全般、造血幹細胞移植、成人T細胞性白血病、感染症、栄養管理

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医・指導医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本がん治療認定医機構がん治療認定医、日本化学療法学会抗菌化学療法認定医、ICD制度協議会インフュージョンコントロールドクター、厚生労働省臨床研修指導医

○佐伯 恭昌(部長)

2008年岡山大学医学部卒

専門分野:血液全般

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、厚生労働省臨床研修指導医

○板楠 今日子(部長)

2009年筑波大学医学専門学群卒

専門分野:血液全般

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医、日本血液学会血液専門医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、日本輸血・細胞治療学会認定医、厚生労働省臨床研修指導医

○阿部 将也(医長)

2014年岡山大学医学部卒

専門分野:血液全般

資格:日本内科学会認定内科医・総合内科専門医、日本血液学会血液専門医・指導医、日本造血・免疫細胞療法学会造血細胞移植認定医、厚生労働省臨床研修指導医

○後藤 有基(医長)

2015年金沢大学医学部卒

専門分野:血液全般、栄養管理

資格:日本内科学会認定内科医、日本血液学会血液専門医、厚生労働省臨床研修指導医

○土居 優希(専攻医)

2022年愛媛大学医学部卒

専門分野:血液全般

○野村 恭一郎(専攻医)

2022年山口大学医学部卒

専門分野:血液全般

2. 実績

当科では、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群、白血病などの血液疾患を対象として、安全で患者さんの満足度の高い化学療法を行うことを目標としています。初回化学療法は基本的に全例入院で行い、その後の化学療法は症例の病態に応じて入院での治療を繰り返すか、外来で行うかを決定することで、安全な化学療法を目指しています。また、新しい治療方法にも積極的に取り組んでおり、2026年から CAR-T 細胞療法(患者さんのリンパ球を取り出し、遺伝子改変を加えて体に戻す治療)を導入し、化学療法、細胞療法、造血細胞移植と、対応できる治療を増やしています。

県内の血液疾患の患者さんは、なるべく地元で治療ができるように、県立南宇和病院に2か月に1回、県立今治病院に月1回診療支援に伺っています。治療の必要な患者さんは迅速に中央病院で治療を行い、状態が落ち着いて南宇和や今治でも治療可能となれば、県立南宇和病院・県立今治病院で診療を行っていく体制を構築し、東予・南予地区においても、患者さんの満足できる質の高い血液診療を提供できるよう心がけています。

■ 疾患別入院患者数

疾患名	2023	2024	2025
急性白血病	145	148	131
うち ALL	52	42	27
骨髄異形成症候群	56	51	69
悪性リンパ腫	311	330	355
多発性骨髄腫	65	52	69
慢性骨髄性白血病	14	15	4
慢性リンパ性白血病	0	2	4
再生不良性貧血	9	8	8
その他	73	90	120
合計	673	696	760

■ 死亡症例数

	2023	2024	2025
症例数	30	25	26
うち剖検数	1	2	2

■ 初診患者数

疾患名	2023	2024	2025
急性白血病	18	23	26
うち ALL	5	4	4
骨髄異形成症候群	18	21	26
悪性リンパ腫	103	104	105
多発性骨髄腫	17	8	20
慢性骨髄性白血病	15	9	3
慢性リンパ性白血病	3	1	1
再生不良性貧血	5	9	4
特発性血小板減少性紫斑病	21	22	17
その他	121	110	136
合計	321	307	338

■ 検査・治療件数

検査・治療名	2023	2024	2025
骨髄穿刺	389	431	436
骨髄生検	191	238	231
血液疾患による輸血療法			
赤血球製剤	3,826	3,530	3,198
新鮮凍結血漿	228	466	198
濃厚血小板	12,870	11,340	12,940
自己血	13	13	11
小計	16,937	15,349	16,347
血縁者間骨髄移植	3	0	1
非血縁者間骨髄移植	0	1	1
血縁末梢血細胞移植	1	6	2
非血縁末梢血細胞移植	0	0	0
自家末梢血幹細胞移植	10	4	2
臍帯血移植	7	7	6
うちハプロ移植	2	4	3
移植後外来(件数)	68	68	61
外来化学療法			
外来化学療法(点滴)	843	849	700
外来化学療法(皮下注)	1,664	1,392	1,156
小計	2,507	2,241	1,856
セカンドオピニオン(紹介数)	3	3	0
骨髄移植ドナー	7	4	4
うち非血縁	4	4	3
末梢血幹細胞移植ドナー	5	6	3
うち非血縁	3	0	1

3. 2026 年度目標

昨年度に引き続き、職員が安心して働くことができ、離職者が出ず、職員満足度の高い職場を目指します。その結果、患者さんに良質な医療が提供でき、患者さんの満足度も上がると考えています。具体的な目標は以下のとおりです。

(1) 職員の心理的安全性重視と働き方改革

当科のチーム医療においては、職員の心理的安全性を重視します。つまりパワーハラスメントの撲滅です。各自が思ったことを気兼ねなく発言でき、チーム内の意思疎通が十分に行われることで、重複する業務を減らし、職員が安心・納得して働ける職場を作っていきます。

(2) 患者さんの QOL(生活の質)向上

当科には造血細胞移植を通じて構築した良好なチーム医療の体制があります。チーム医療を生かして、安心・安全な医療を提供し、患者さんの QOL の維持・向上を図ることで、「当院で治療して良かった」と患者さんに言っていただける医療を提供します。

(3) EBM 重視と EBM 創出

医療の提供にあたっては、医師のみならず、チームの全員がエビデンス(提供する医療の根拠)を重視して、患者さんおよび医療スタッフが納得できる医療を目指します。また、EBM 創出のため臨床研究を推奨し、日常の業務の中で気が付いた疑問が解決できるような研究に取り組み、学会発表や論文発表を通じて成果を発信していきます。

4. 学術関係

(1) 学会発表および講演

- 森悠記、橋田里紗、宗石翔、橋さやか、土居優希、宗石愛花、諫見俊宏、後藤有基、上田怜、板楠今日子、佐伯恭昌、中瀬浩一、名和由一郎。再生不良性貧血に対する骨髄移植後に RS ウイルス感染症を契機として発症した続発性肺胞蛋白症の一例。第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会。大阪 (2025.2.27-3.1)
- 森文子(国立がん研究センター中央病院)、黒澤彩子(伊那中央病院)、福地朋子(大阪母子医療センター)、土井久容(神戸大学)、後藤秀樹(北海道大学)、藤原実名美(東北大学)、土岐典子(がん・感染症センター都立駒込病院)、森有紀(虎の門病院)、後藤辰徳(日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院)、井美達也(金沢大学)、中前博久(大阪公立大学)、清家圭介(岡山大学)、名和由一郎、櫻井麻子(九州大学)、浜田聡(琉球大学)、大園秀一(久留米大学)、岡村浩史(大阪公立大学)、西川彰則(和歌山県立医科大学)、福田隆浩(国立がん研究センター中央病院)。移植後長期フォローアップ外来の開設状況に関する検討～移植後 LTFU 外来現状把握のための全国調査より～。第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会。大阪 (2025.2.27-3.1)
- 諫見俊宏、中瀬浩一、橋田里紗、土居優希、宗石愛花、森悠記、後藤有基、上田怜、板楠今日子、佐伯恭昌、名和由一郎。同種造血幹細胞移植を実施した血液疾患患者の安静時心拍数が生存率に与える影響。第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会。大阪 (2025.2.27-3.1)
- 黒澤彩子(伊那中央病院)、森文子(国立がん研究センター)、後藤秀樹(北海道大学)、藤原実名美(東北大学)、土岐典子(がん・感染症センター都立駒込病院)、森有紀(虎の門病院)、後藤辰徳(日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院)、井美達也(金沢大学)、中前博久(大阪公立大学)、清家圭介(岡山大学)、名和由一郎、森康雄(九州大学)、浜田聡(琉球大学)、大園秀一(久留米大学)、岡村浩史(大阪公立大学)、西川彰則(和歌山県立医科大学)、土井久容(神戸大学)、福地朋子(大阪母子医療センター)、福田隆浩(国立がん研究センター中央病院)。移植後 LTFU 外来現状把握のための全国調査より:診療対象と時期、移行に関する現状。第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会。大阪 (2025.2.27-3.1)
- 前垣雅哉(鳥取大学)、高橋勉(島根大学)、鈴木一史(東京慈恵会医科大学)、皆方大佑(自治医科大学)、寺尾俊紀(岡山大学)、藤田真也(関西医科大学)、半下石明(国立国際医療研究センター病院)、小宅達郎(岩手医科大学)、賀古真一(自治医科大学附属埼玉医療センター)、青墳信之(成田赤十字病院)、塚田信弘(日本赤十字医療センター)、多林孝之(埼玉医科大学総合医療センター)、小林光(長野赤十字病院)、名和由一郎、一戸辰夫(広島大学)、神田善伸(自治医科大学)、大引真理恵(愛知医科大学)、熱田由子(愛知医科大学)、河村浩二(鳥取大学)。本邦における形質細胞性白血病に対する自家移植と同種移植の比較。第 47 回日本造血・免疫細胞療法学会総会。大阪 (2025.2.27-3.1)
- 土居優希、佐伯恭昌、諫見俊宏、森悠記、後藤有基、上田怜、橋田里紗、板楠今日子、中瀬浩一、名和由一郎。特発性血小板減少性紫斑病の治療中に診断した分類不能型免疫不全症の 1 例。第 64 回日本血液学会中国四国地方会。高知 (2025.3.8)
- 拜郷大翔(岡山大学)、久保田紗矢(岡山大学)、肥山隆一郎(岡山大学)、上野雅也(岡山大学)、上田弥生(岡山大学)、林野健太(岡山大学)、藤原加奈子(岡山大学)、橋田里紗、小林宏紀(姫路赤十字病院)、近藤匠(岡山大学)、清家圭介(岡山大学)、藤原英晃(岡山大学)、浅田藤(岡山大学)、遠西大輔(岡山大学)、藤井敬子(岡山大学)、藤井伸治(岡山大学)、松岡賢市(徳島大学)、前田嘉信(岡山大学)。古典的ホジキンリンパ腫に対する同種造血幹細胞移植後に EBV 陽性 T-PTLD を発症した 1 例。第 64 回日本血液学会中国四国地方会。高知 (2025.3.8)
- 寺尾俊紀(岡山大学)、吉田功(国立病院機構四国がんセンター)、小林宏紀(姫路赤十字病院)、浦田知宏(高知医療センター)、藤井郁成(亀田総合病院)、廻勇輔(岡山市立市民病院)、杉浦弘幸(福山市市民病院)、吉岡尚徳(独立行政法人国立病院機構岡山医療センター)、佐伯恭昌、新谷大悟(岡山赤十字病院)、朝倉昇司(岡山労災病院)、西森久和(広島市立広島市民病院)、藤原英晃(岡山大学)、遠西大輔(岡山大学)、前田嘉信(岡山大学)。1,478 名の未治療 DLBCL 患者の PR-CHP と R-chemo の有効性と再発パターンの違い。第 87 回日本血液学会学術集会。神戸 (2025.10.10-12)
- 後藤つむぎ、後藤有基、野村恭一朗、諫見俊宏、上田怜、橋田里紗、板楠今日子、佐伯恭昌、中瀬浩一、名和由一郎。ステロイドが奏効した成人発症発作性寒冷ヘモグロビン尿症。日本内科学会第 133 回四国地方会。高松 (2025.11.30)

(2) 論文・著書

- 名和由一郎。VII 白血病治療の支持療法と支援 1.治療関連有害事象とマネージメント (7)白血病治療における食事と栄養管理。日本臨牀 2025 年 83 巻増刊号 5 新・白血病学(下)。日本臨牀社。390-395 (2025.5.31)

2. Wataru Kitamura(Okayama University), Keiko Fujii(Okayama University), Masaya Abe, Kazuhiro Ikeuchi(Okayama University), Kana Washio (Okayama University), Fumio Otsuka(Okayama University), Yoshinobu Maeda (Okayama University), Nobuharu Fujii(Okayama University). Novel leukocy-tapheresis method using highly concentrated sodium citrate solution for the manufacturing of tisagenlecleucel. *Transfus Apher Sci* 64(6). 104265 (2025.12)
3. Masaya Maegaki(Tottori University), Tsutomu Takahashi(Shimane University), Kazuhito Suzuki(The Jikei University), Daisuke Minakata(Jichi Medical University), Toshiki Terao(Okayama University), Atsushi Satake(Kansai Medical University), Hangaishi Akira(National center for global health and medicine), Tatsuo Oyake(Iwate Medical University), Yoshinobu Kanda (Jichi Medical University Saitama Medical Center), Nobuyuki Aotsuka(Japanese Red Cross Society Narita Hospital), Nobuhiro Tsukada(Japanese Red Cross Medical Center), Takayuki Tabayashi(Saitama Medical Center, Saitama Medical University), Hikaru Kobayashi(Nagano Red Cross Hospital), Yuichiro Nawa, Tatsuo Ichinohe(Hiroshima University), Marie Ohbiki (Aichi Medical University), Yoshiko Atsuta(Aichi Medical University), Koji Kawamura(Tottori University). Comparison of Autologous and Allogeneic Hematopoietic Stem Cell Transplantation for Primary Plasma Cell Leukemia in Japan. *Transplant Cell Ther* 31(12). 1031.e1-1031.e11 (2025.12)